

修士論文の内容要旨

【分 野】 統合保健看護科学

【題 名】

Robson 分類を用いた会陰切開率の検討

(Examination of episiotomy rate using the Robson classification)

生命育成看護科学講座 中 野 真 帆

【目 的】

本研究では、Robson 分類を用いて会陰切開率を評価し、分娩日時と会陰切開の有無との関連について評価を行う。妊婦の特性や分娩日時などの状況要因と会陰切開率との関連について明らかにすることで、母児への安心安全なケアを提供する際の臨床における基礎的資料とすることを目的とした。

【方 法】

本研究は、大阪大学医学部附属病院で 2007 年 1 月から 2018 年 12 月までに出産した全妊婦を対象とし、産婦人科の分娩登録データベースを使用した。分析に用いた主なデータは、母親の年齢、身長、非妊時 BMI、分娩回数、陣痛発来 of 時期、胎位、胎数、妊娠週数、会陰切開の有無、分娩様式、CTG 異常の有無、児身長、出生体重、頭囲である。分娩日時は、平日(日勤帯)、平日(日勤帯以外)、休日(日勤帯)、休日(日勤帯以外)の 4 群とした。Robson 分類により対象者を層別化し、会陰切開率の評価では 4361 名、分娩日時と会陰切開の有無との関連の評価では 3840 名を分析の対象とした。

【結 果】

Robson 分類ごとの会陰切開の実施割合を算出し、 χ^2 検定を用いて比較を行った結果、経産婦と比較して初産婦における会陰切開率が有意に高かった(17.04-21.29% VS 44.99-46.72%, $p < 0.0001$)。一方、対象者の属性について記述統計を行い、分娩日時との関連を χ^2 検定を用いて比較した結果、属性では有意な関連はみられなかったが、初産婦かつ誘発分娩症例の平日(日勤帯以外)での会陰切開率が有意に高く(65.44%, $p = 0.001$)、分娩日時による影響があることが明らかとなった。

【結 論】

本研究結果において、初産婦における会陰切開率が高く、対象によりその割合が変動することが明らかとなった。今後、施設間での比較可能な会陰切開に関する指標を示す際は、Robson 分類を用いて対象者を層別化し評価することが有用であることが示唆された。また、初産婦かつ誘発分娩症例における会陰切開率は、分娩日時との明らかな関連がみられた。このことから、母児の要因以外での不必要な会陰切開が実施されている可能性があるという実態が明らかとなった。